

J a p a n C o n で 国 土 交 通 大 臣 表 彰

日さくセネガルの水供給プロジェクトで

日さくが施工を手がけた「農村地域における安全な水の供給と衛生環境改善計画(セネガル)」が、国土交通省の「第2回Japanコンストラクション国際賞」建設プロジェクト部門で、国土交通大臣表彰を受賞した。表彰式では、若林直樹・社長が石井啓一・国土交通大臣から表彰状を授与された。水分野での



石井大臣から表彰状を授与された若林社長(左)



200mの高架水槽と車両用給水所

受賞は同社が初めてとなる。同プロジェクトは、電気・水道などの生活基盤となるインフラが整備されていないセネガルの農村地域において、安全な地下水を取水源とした給水施設と衛生施設を同一サイト内に建設するもの。工期は2016年4月20日～17年8月。同社はセネガルの村落給水プ

ロジェクト(ODA無償資金協力事業)を1979年から受注しており、今回のプロジェクトはその第14期にあたる。今回は、マタム州に1サイト、タンバクンダ州に3サイト、ケドウグ州に1サイトの5サイトで、同社が得意とする水源用深井戸掘削(310m×1井、410m×1井)や既存水源井戸改

修(3井)、水中ポンプや発電機などの揚水設備の設置、RC製高架水槽による重力式長距離配水管(PVC、φ32×250、5サイトで合計約86基)や給水施設(共同水栓75基、家畜用水飲み場6基、車両給水所8基)を新設した。また、同国

政府は給水と衛生の一体的な改善を政策として掲げていることから、公衆トイレ26室、手洗い場14カ所も建設した。水量・水質ともに良好で、安全な水道水の供給に貢献したほか、女性や児童の労働となつている水くみの負担軽減、衛生環境の改善につながった。

プロジェクトの特徴は、水中モーターポンプの起動方式にオートランスプォ起動を採用した点だ。起動時の負荷電流値を低く抑えることで発電機の燃料消費を低減し、また起動時の突入電流による負荷を軽減したこと

で、メンテナンスなどの維持管理コストの低減を図った。現場での単純作業では敢えて重機を使用せず、現地作業員を雇用するなどして雇用を創出した。

さらに、品質管理においては、現地のノウハウでは施設建設地の地盤の安全性確認に疑念が残っていたことから、日本から持ち込んだ試験機を用いて安全性の再確認を行

ったほか、現地協力会社に対して試験器の使用法や評価方法についての技術移転を行った。工程管理では、日本では想定できないリスクがあることから、日本人技術者を現場に常駐させ、作業員や地域コミュニティとの綿密なコミュニケーションを図りながら、進捗確認を行い、遅延が見られた場合は人員・資機材を増強させた。

今回の取り組みで、同社は、長年にわたって築いた同国の施主(水省地方井戸局など)や協力会社との信頼関係のもと、現地協力会社の施工能力を活かしつつ、日本の建設マネジメントを組み込んで「質の高いインフラ」を実現したことなどが高く評価された。